今月の焦点

国内経済金融

為替相場変動と訪日旅行者数の状況

木村　俊文

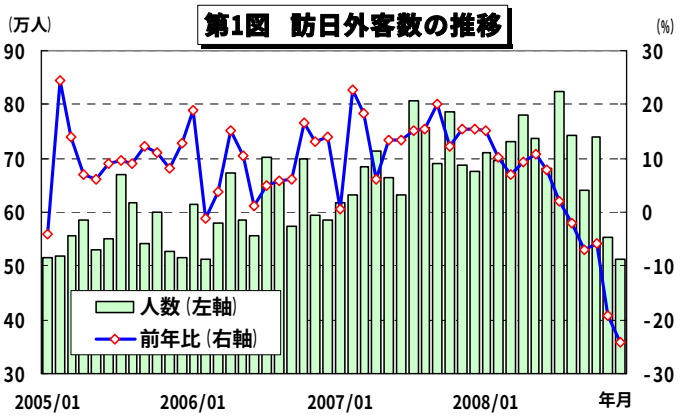
08 年後半から訪日外国人が急減

日本政府観光局（JNTO）によれば、08 年に日本を訪れた外国人旅行者数（訪日外客数）は前年比+0.1%の 835 万 2 千人と、かろうじて前年を上回り、過去最高を更新した。

ただし、上半期（1～6 月）は国土交通省が中心となって推進している「ビジット・ジャパン・キャンペーン（以下 VJC）」の効果などにより前年比+10.0%を記録したが、下半期（7～12 月）は世界同時不況の進行と円高の急進により同▲8.8%と大きく落ち込んだ。

月次では 08 年 8 月に前年比▲2.0%と 30 ヵ月ぶりにマイナスに転じ、12 月には同▲24.1%と、中国中心に重症急性呼吸器症候群（SARS）の感染者が拡大したことで訪日外客数が激減した 03 年 5 月（同▲34.2%）以来の減少幅となった（第 1 図）。

第1図　訪日外客数の推移



出典 「日本政府観光局（JNTO）」
（注）訪日外客数とは、国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者から日本に定住する外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のこと。

韓米英の対円レートが大幅下落

世界的な景気悪化がビジネス・観光などの旅行需要を減らすのは当然のこととして、以下では為替相場変動との関連性を見ていきたい。

第 1 表に示すとおり、08 年の訪日外客数を国別にみると、韓国（前年比▲8.4%）や米国（同▲5.8%）、英国（同▲7.0%）が減少した。これは当該国の自国通貨が円に対して下落（＝円高）した影響によるところが大きいと見られる。

韓国ウォンは、08 年初まで 1 円＝8 ウォン前後で推移していたが、9 月の米リーマンショック以降は円高ウォン安となり、08 年末には史上最安値となる 1 円＝16 ウォンまで 5 割下落した。つまり、韓国人旅行者にとっては、訪日時の購買力が半減したことになる。（第 2 図）。こうしたウォン安に加え、韓国でも株価下落、景気悪化が本格化したため、外国への旅行意欲が急速に落ち込んだものと思われる。同様に、08 年末の米ドルも円に対して年初比 2 割強下落し、史上最安値を更新した英ポンドは同約 4 割下落している。

第2図　ドル円・円ウォン相場の推移

Bloombergデータより作成

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

第1表　訪日外客数の増減率とシェア

	08年総数（千人）	前年比（%）			シェア（%）		
		06年	07年	08年	06年	07年	08年
総数	8,352	9.0	13.8	0.1	100.0	100.0	100.0
韓国	2,383	21.2	22.8	▲ 8.4	28.9	31.2	28.5
台湾	1,390	2.7	5.8	0.4	17.8	16.6	16.6
中国	1,001	24.3	16.1	6.2	11.1	11.3	12.0
香港	550	17.9	22.6	27.3	4.8	5.2	6.6
タイ	192	4.5	33.2	14.6	1.7	2.0	2.3
シンガポール	168	23.1	31.1	10.6	1.6	1.8	2.0
オーストラリア	242	▲ 5.4	14.1	8.8	2.7	2.7	2.9
米国	768	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 5.8	11.1	9.8	9.2
カナダ	168	5.0	5.4	1.4	2.1	2.0	2.0
英国	207	▲ 2.3	2.5	▲ 7.0	3.0	2.7	2.5
ドイツ	126	▲ 2.6	8.5	0.8	1.6	1.5	1.5
フランス	148	6.3	17.0	7.1	1.6	1.7	1.8
その他	1,009	▲ 3.1	10.7	3.2	12.0	11.7	12.1

出典「日本政府観光局（JNTO）」　（注）上記数値のうち、06年～07年は確報値、08年はJNTOによる推計値。

韓国人急減による影響

韓国人旅行者は訪日外客数の約 3 割を占めるが、彼らの宿泊旅行先の上位 5 都道府県は東京、大阪、北海道、福岡、長崎の順位（観光庁「宿泊旅行統計」）となっている。

このうち福岡では、博多港と釜山港を 3 時間弱で結ぶ高速フェリーや航空便により、韓国人観光客を多く誘致してきた。距離的に近く、福岡都市圏の商業施設が集積していることから、日本製家電製品や海外ブランド品などが購入しやすいことが人気で、08 年上半期まで増加傾向が続いた。しかし、08 年 9 月の高速フェリーへの韓国人乗客数は前年比▲24.8%と急減したほか、福岡への韓国人宿泊旅行者数も 7～9 月期に前年比▲19.4%と大きく減少し、その後も落ち込んだ状況が続いている。

このように地域によっては、訪日外客数の減少が商業施設や観光業の経営を圧迫するなど、地域経済への影響が出ている。

香港人旅行者数は増加幅拡大

全体の訪日外客数が伸び悩むなかで、香港は 06 年（前年比+17.9%）、07 年（同+22.6%）、08 年（同+27.3%）と増加幅が拡大した（第 1 表）。香港では、最も人気のある海外旅行先が日本であり、かつ訪日香港人旅行者が再度訪れる割合（リピーター率）も約 8 割と高く、しかも団体旅行ではなく、富裕層中心の個人旅行が増加するといった成熟した旅行市場であるという。

また、09 年の 1 年間を「2009 日本香港観光交流年」とするほか、地方空港への航空便を拡充するなど、わが国政府も VJC 推進上から香港という観光市場を重視している。こうしたことが香港からの誘客につながっていると見られる。

しかしながら、香港ドルは米ドルに連動（1 米ドル＝約 7.8 香港ドルとする管理通貨制度＝カレンシーボード制）しているため、今後円高の影響を受けて訪日外客数が減少する恐れもある。

当面は厳しさが続く

現状の訪日外客数の激減は、円高に振れた為替相場の急変が原因の一つであると考えれば、為替相場が再び円安方向に戻れば持ち直しに転じる可能性もある。

しかし、世界的な景気悪化で海外からのビジネス出張が減少し続けることも十分予想されることから、訪日外客数は当面、厳しい状況が続くだろう。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます